

# 平成 19 年度 ISO/TC211 規格原案等に関する調査作業

実施期間	平成 19 年度		
企画部地理空間情報企画室	吉田 健一	飯村 威	
	大木 章一	久保 紀重	

## 1. はじめに

国土地理院では、国際規格に準拠した「地理情報標準」を作成し、その普及を進めてきた。政府の地理情報の標準であり、GIS アクションプログラムにも位置づけられている地理情報標準を、整備・普及していくためには、国際規格及び国内規格の進捗状況とその検討内容を常に把握しておく必要がある。

## 2. 研究内容

本調査作業は、地理情報の標準化を適切に推進するために、国際標準化機構（ISO）の地理情報に関する専門委員会（TC211）において検討されている地理情報の国際規格化動向、及び国内規格（JIS）について、その内容の調査を行うとともに、今後これらの国際規格を国内規格として適用するために必要な基礎情報を収集整理したものである。

## 3. 得られた成果

本調査作業で得られた成果は、以下の通りである。

### 3. 1 ISO/TC211 規格原案に関する調査

ISO/TC211 規格原案に関する調査としては、作業状況、総会及び国内委員会の実施状況、投票及び意見照会状況を調査し、主な作業項目の規格原案及び規格の内容について、資料等を収集し整理した。

#### ①作業状況

平成 19 年度に国際規格（IS）等となった項目は、「座標による空間参照（改訂）」「データ製品仕様」「場所に基づくサービス参照モデル」「地理マーク付け言語」「空間スキーマのコアプロファイル」「メタデータXML スキーマによる実装」である。

#### ②総会及び国内委員会の実施状況

- ・第 24 回総会（イタリア：ローマ、平成 19 年 5 月 27 日～6 月 1 日）

ISO/TC211 の構造の見直し、「座標による空間参照第 2 部：パラメタ値のための拡張」「描画法（改訂）」等新規作業項目の登録、「UBGI」特別グループの設置、OGC への WMS の提案要請等が決議された。

- ・第 25 回総会（中国：西安、平成 19 年 10 月 29 日～11 月 2 日）

「概念スキーマ（改訂）」「品質原理（改訂）」「ユビキタス空間における動的位置識別スキーマ」等新規作業項目の登録、WG10（ユビキタス一般アクセス）の設置、符号化改定の作業継続等が決議された。

- ・国内委員会の開催状況

第 43 回を平成 19 年 5 月 24 日、第 44 回を平成 19 年 8 月 10 日、第 45 回を平成 19 年 10 月 23 日、第 46 回を平成 20 年 2 月 4 日に開催した。国内委員会では、各作業項目に係わる意見照会及び投票

案件について慎重な審議を行うとともに、意見・投票方針を議決した。

### ③投票及び意見照会状況

#### ・意見照会

平成19年3月～平成20年3月まで45件の意見提出、投票を行った。

#### ・国際規格案等への投票

「データ製品仕様」(FDIS)等、国際規格案への投票を行った。

### ④規格原案及び規格内容

平成19年度の主な作業項目の規格原案及び規格の内容について調査し、資料等を収集・整理した。

### ⑤ISO/TC211 総会に伴う事前調査

平成20年12月に行われる第27回総会(つくば市)のため、総会実行委員会を設置した。

## 3. 2 JIS 原案に関する調査

JIS 原案に関する調査としては、地理情報の専門用語(更新)に関する調査及び平成18年度より行っている(1)「ISO19109 応用スキーマのための規則」、(2)「ISO19110 地物カタログ化法」、(3)「ISO19114 品質評価手順」、(4)「ISO19123 被覆の幾何及び関数のためのスキーマ」の4項目、及び平成19年度に発行した(5)「ISO19136 地理マーク付け言語」、(6)「ISO19131 データ製品仕様」「ISO19111rev 座標による空間参照(改訂)」に関し、国際規格(IS)を国内規格(JIS)に適用する際に、国内規格等の現状について検討し、必要となる事項について調査を実施した。

#### ①JIS 原案作成状況

「JIS X 7114 品質評価手順」については、第四次原案作成後、規格調整委員会と調整中である。「JIS X 7109 応用スキーマのための規則」及び「JIS X 7110 地物カタログ化法」については、JISC 情報技術専門委員会審議中である。また、「JIS X 7123 被覆の幾何及び関数のためのスキーマ」については第11回 JIS 原案作成委員会(平成19年7月17日開催)の結果を受けて第一次原案を修正中である。「JIS X 7136 地理マーク付け言語」については、分科会にて第一次原案を作成中である。「JIS X 7131 データ製品仕様」、「JIS X 7111 座標による空間参照(改訂)」については分科会準備中である。

#### ②用語調査

地理情報の専門用語は、平成18年3月に改訂された内容を、日本工業規格(JIS)に制定された(1)適合性及び試験、(2)空間スキーマ、(3)時間スキーマ、(4)座標による空間参照、(5)地理識別子による空間参照、(6)品質原理、(7)メタデータ及び地理情報標準第2版(JSGI2.0)に収録されている(1)応用スキーマのための規則、(2)地物カタログ化法、(3)品質評価手順、(4)描画法、(5)符号化等の項目について平成19年3月、収録・確認し、多言語対照表を作成し、公開した。

#### ③規格原案及び規格内容

平成19年度の JIS 原案及び規格の内容について調査し、資料等を収集・整理した。

## 4. まとめ

本調査作業で平成19年度の ISO/TC211 及び関連する JIS についての調査を行い、関連資料を収集・整理したことにより、国際規格、国内規格の最新の状況を把握することができた。地理情報分野の国際規格においては、近年、新たに様々な項目が提案されてきている状況が続いており、国内規格への影響も大きい。ため、今後も継続的に調査し状況を把握しておく必要がある。